



令和5年度

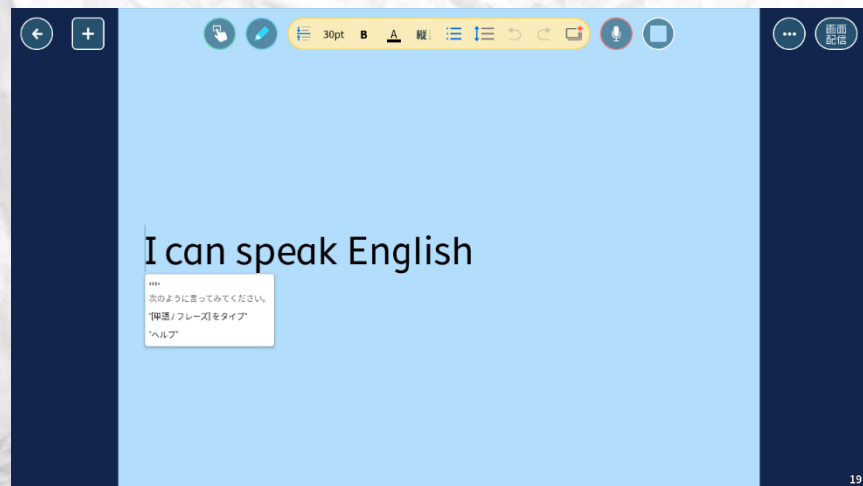
新地町立尚英中学校

ICT活用の取組

取組1

聞く、話す活動を通して正しい発音の獲得に向けた取り組み

音声入力機能を使った発音練習



デジタル教科書を活用し発音を確認しながらの練習



取組2

個の特徴に合わせた活用により、基礎力の向上を図る実践

単元ごとのシート

change	sometime
Unit2-1 配布日時: 2022年5月30日 09:42 提出済み: 0/1 採点済み: 0/1	Unit2-2 配布日時: 2022年5月31日 15:20 提出済み: 0/1 採点済み: 0/1
directly	blend
Unit2-3 配布日時: 2022年6月3日 13:36 提出済み: 0/1 採点済み: 0/1	Unit2-4 配布日時: 2022年6月6日 13:00 提出済み: 0/1 採点済み: 0/1

単語ごとのシート

1 change
2 kind
3 kind
4 kind
5 kind
6 kind
7 kind
8 kind

・・・kind of ・・・種類の～

kind of
kind of
kind of
kind of
kind of

単元の単語の確認

変わる、変化する

聞いて知る
・・・を耳にする

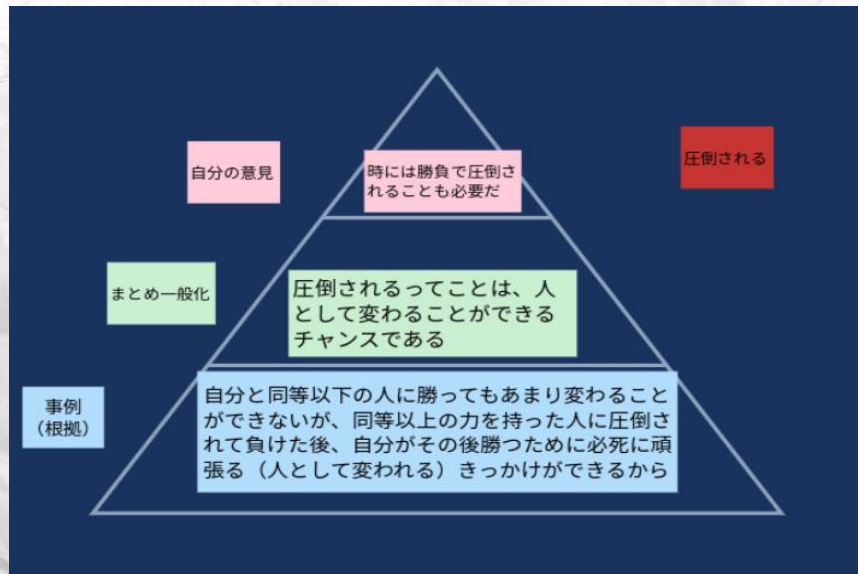
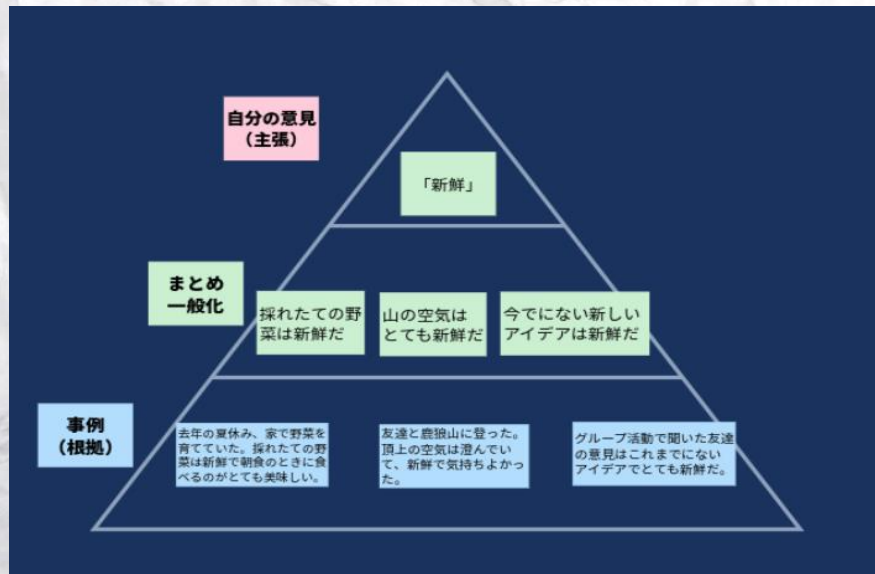
A 種類の～
O、世界中の人々
種類
過去形
聞いた
・・・でさえ
今までに一度も・・・しない

change
hear
・・・kind of
world
kind
heard
even
never

取組3

シンキングツールの活用による考えの形成

ピラミッドチャートを使い、自身の主張の根拠を想起させた



取組4

単元・題材を通したポートフォリオの作成による考えの形成

単元・題材を通したポートフォリオの作成



・授業のつながりが見えることで、
考えの整理や新たな問いの形成
につながった。

エネルギー変換【2-1】 PPTX ☆ 共有

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 スライド 配置 ツール ヘルプ 最終編集: 森田 前

10 11 12 13 14

まとめ

めあて

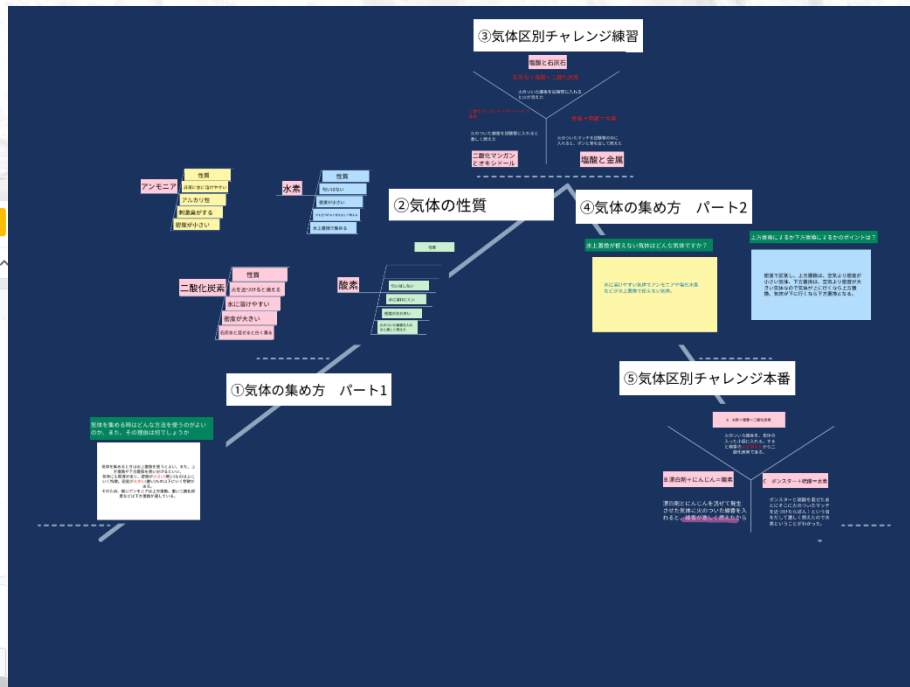
エネルギー変換
エネルギー損失
ロス

森田 14:00 10月11日
ただエネルギーがあってもだめなのだと思う。
エネルギーを変換して、自分達が使えよう
もっと見る

森田 14:00 10月11日
解決済みです
6 通の返信をすべて表示します

佐藤 15:02 10月11日
再開しました

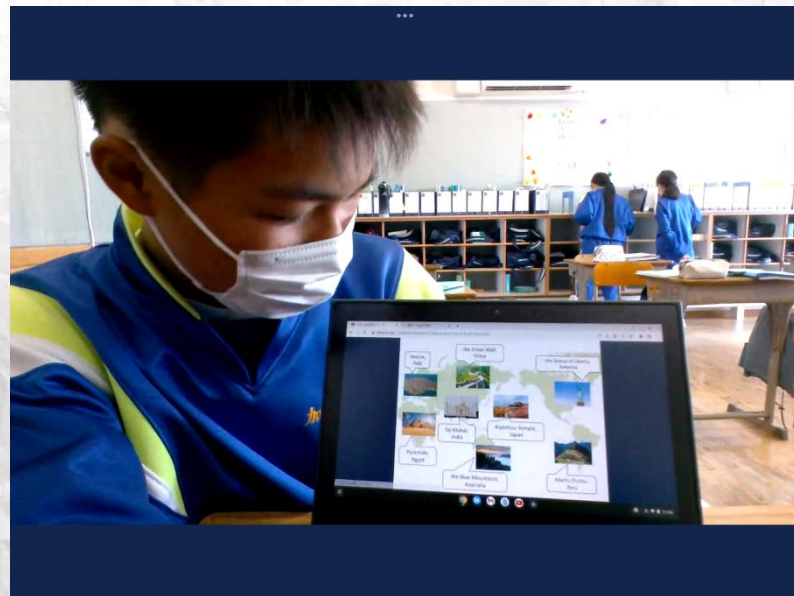
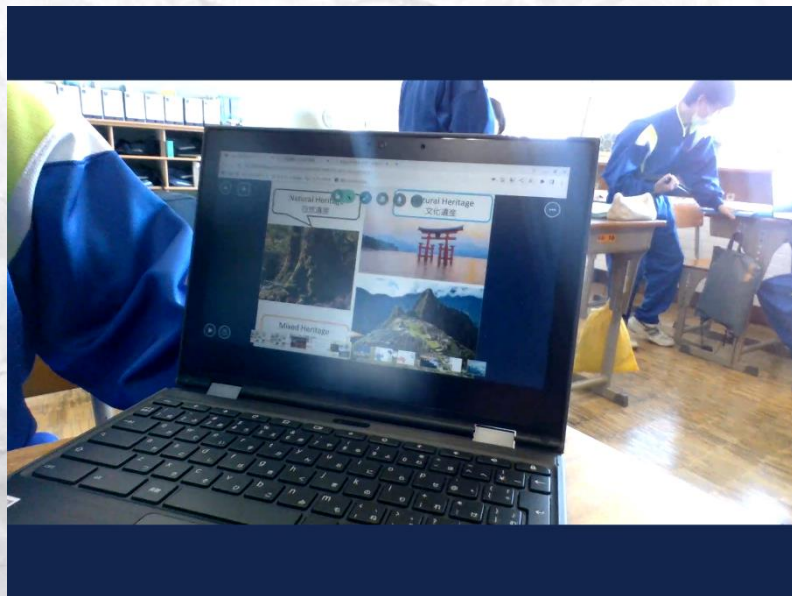
阿部 14:01 10月11日
エネルギーは様々な用途に応じて変換されている事を知った。



取組5

単元の学習をまとめ、表現する実践

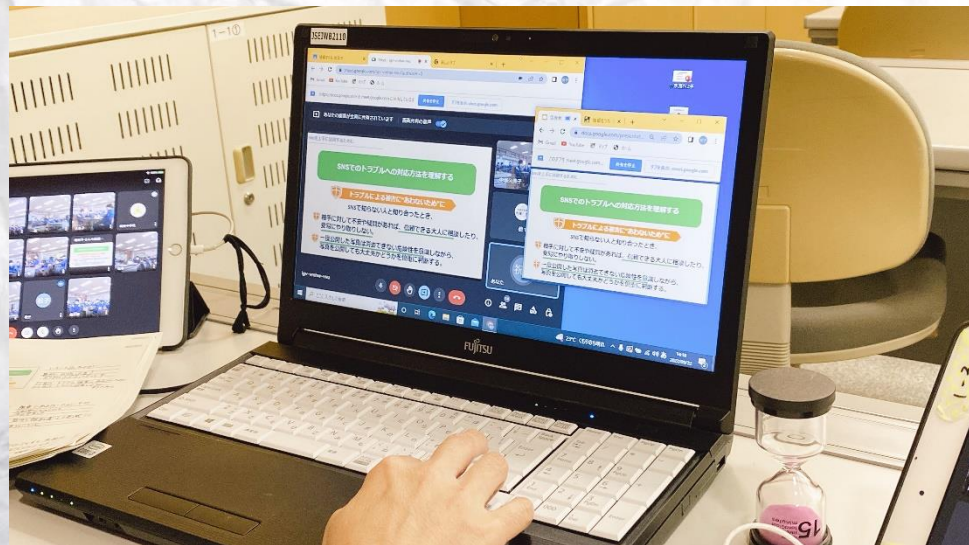
単元の内容を自身の言葉でまとめてプレゼンテーション



取組6

全学年合同による情報モラル教育

全校をweb会議ツールで繋ぎ、合同で実施した情報モラルに関する授業



活用上の課題・問題点

- 活用場面の視点
 - ・生徒の意見を共有すべき場面とそうでない場面
→活動に応じて精選しなくてはならない。
 - ・タイピングの技能に差がある。
→手書きしたものを撮影させるなど技能に応じた選択をさせるなどの配慮が必要。
- 情報モラル教育の視点
 - ・自分事として捉えさせるためにはどうするか
→事例等を紹介するだけでなく、生徒が自分事として捉えるための工夫が必要。
- 管理の視点
 - ・どこまで自由に使えるか
→本校では、MDM等での管理を行っていない。自由に使えることは重要だが、最低限の管理ラインをどこにすべきなのか。

① ICT 活用の好事例について

<総合（3年）「地域に貢献できる活動には どんなことがあるか」>

1学期に震災・認知症・障がい者などの福祉講座が行われた。それをもとに私たちがこれからどんなことができるかを考え、それをロイロノートにスライド形式でまとめた。かなり短時間であったが、プレゼンの準備・発表をすることができた。



<英語（3年）「パフォーマンステスト」>

「話すこと」におけるパフォーマンステストを実施した。事前に課題を周知し、声を録音したものを提出させた。後日、英語科教員とALTが点検・評価をした後、返却を行った。一人一人の発表に対し、個別でフィードバックを行うことができた。

The history of ibises

Evaluate A / B / C / D

- A: トキの歴史について重要な点を整理し、正確で適切な文法や語句を用いて説明している。
B: トキの歴史について重要な点を、適切な文法や語句を用いて説明している。
C: トキの歴史について、習った文法や語句を用いて説明している。
D: 説明できていない。

<音楽（3年）「実技テスト」>

歌唱や演奏などの実技テストにおいて、ロイロノートを使って実施した。従来の方法であると、チャンスは1回きりだったのに対して、何度も録音し直せること、自分で聞いて修正することができることなどができ、生徒も前向きに取り組むことができた。

また、楽器の分類についてのワークシートを作成し生徒に行かせた。木管楽器、金管楽器、打楽器と書かれたそれぞれの枠内に楽器の名前の書かれたオブジェクトを移動させることで、楽器の分類についての理解を深めることができた。

②ICT 活用上の課題・問題点について

- ・ ネット環境が不安定かつ制限がある。（体育館はつながらない）
 - ・ 教科によって ICT 端末の利用頻度に差がある。
 - ・ 機器のトラブルによって授業が止まってしまうことが多々ある。
 - ・ 授業で PC を利用する際、関係のないことを調べていても、把握しきれない。
 - ・ デジタルとアナログの使い分け（見極めが難しい）
 - ・ 家庭での ICT 機器の活用
- （情報モラル、通信環境等さまざまな懸念点があり持ち帰りは行っていない。）

南相馬市立原町第三中学校

ICT活用 実践例及び成果と課題

1 ICT活用事例

- (1) Apple TVを電子黒板のある教室全てに設置。教師や生徒がミラーリング機能を使いながらiPadを操作し、撮影、表示、操作、作成・制作、提出、共有、発表、記録などを円滑に行うことができる環境になった。
- (2) “Googleフォーム”を活用した事前・事後アンケート、授業や発表のフィードバックに活用。
- (3) アンケート結果や、生徒の感想・意見などをGoogleのスプレッドシートにまとめ、PDF保存→ロイロノート上で閲覧可能となり、生徒との共有をiPad上で図ることができた。
- (4) Keynoteを使って、よりデザインされたプレゼン発表を行うことができた。(ロイロノートを使っているスライド発表も並行して。)
- (5) AIドリルアプリ“Qubena”を使った補充学習を行った。

2 ICT活用上の課題・問題点

- (1) ICT活用の世代間のギャップがある。本校では少しずつその差は無くなってきた が、どの世代においても、チャレンジする気持ちを大切にしたい。
- (2) iPadやアプリ、Google suiteの使い方・操作に慣れるまで時間がかかる
→覚えれば、かかった分の時間を取り戻せる力となる。
- (3) 地区によって活用されているソフトが違うため、他の管轄から異動してきた教員は慣れるのに時間がかかる。
- (4) 授業でいかに効果的に作用しているかが不安。
- (5) 意思疎通が円滑にいかないときがある。
- (6) ネットサーフィンの規制が強い。調べ学習に不利益。

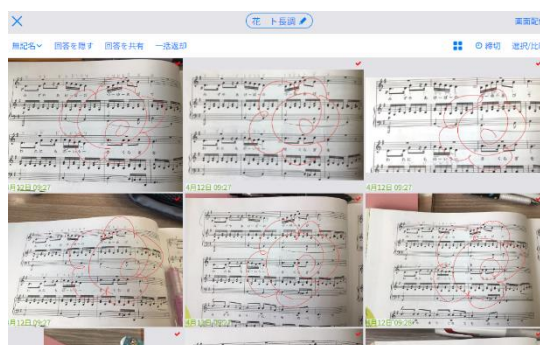
令和5年度 中教研相馬支部情報教育部会 第1次研究協議会資料

本校のICT実践について

〈1〉授業で

①ロイロノートでミニテスト

採点してすぐ返却→振り返りを行い再提出。



〈2〉特別活動や家庭学習で

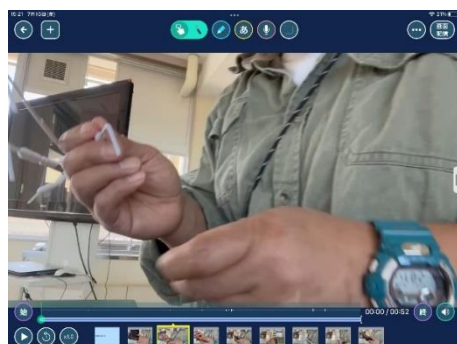
①学習の手引き、生徒会要項などを電子化

印刷・丁合の時間、紙の削減。紛失防止。

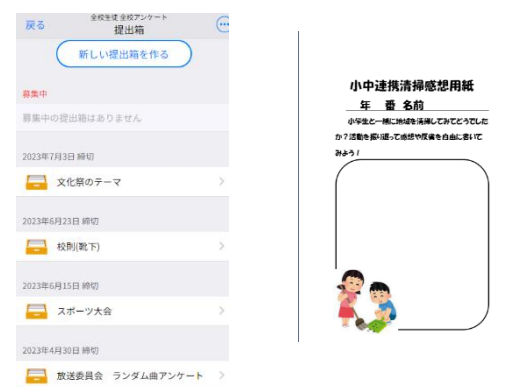


②ロイロノートで作業工程動画配信

個別に自分の進度に合わせて何度も確認。

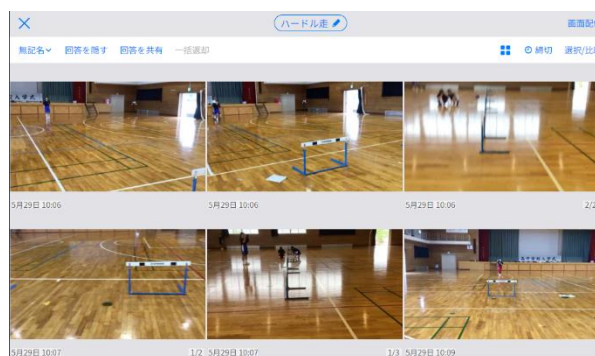


②生徒会アンケートや行事資料、反省提出



③ロイロノートで実技チェック

ゆっくり再生して改善点をチェック。



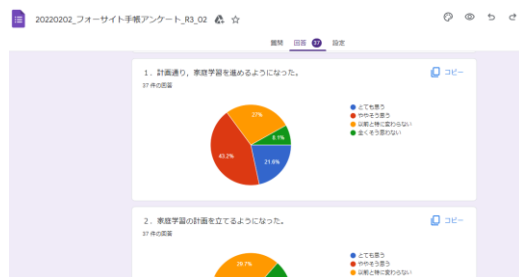
③夏期休業課題にニューコース学習システム

テキスト採用はなし。生徒の取り組み状況を確実に把握。休業中オンラインで生徒への支援。



〈3〉先生の事務効率軽減化と情報共有

①学習アンケート等に Googleform を活用 印刷や集計の時間削減



②会議資料、各種資料の PDF 化

印刷・丁合の時間、紙の削減。紛失防止。



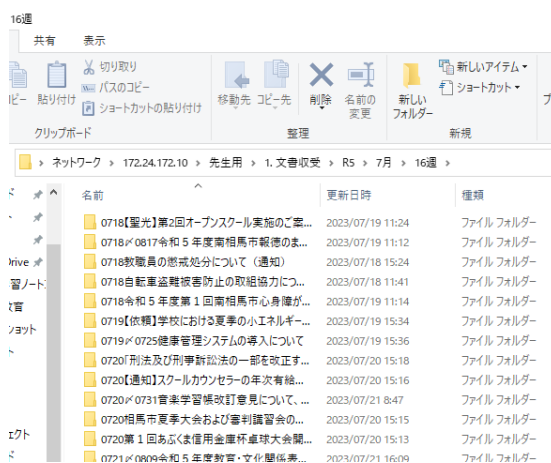
③現職での活用

互見授業の参観シートをスプレッドシートで共有、意見交流。

名前	日付	学年	授業	つかう	協働	見取り	取り入れたいこと	希望	授業者からの回答
松尾 尚美	2022/7/20	1年	算数						

④文書收受フォルダの共有

各自必要な文書詳細は、フォルダから。



本校の ICT 活用上の課題・問題点

○朝から放課までずっと生徒はタブレットを携帯し、自由に使っている。全校生を対象に、4月のPTA総会の裏番組で情報モラル講座を開催したが、まだまだ意識が低い。特に著作権や肖像権に関しては、日常から機会をとらえて継続指導が必要。

○使えないと困る、使われては困る両方の場面があり、校内でのフィルタリング設定が難しい。

○生徒側だけでなく、教員側の利点も考えたICT活用を更に推進していきたい。
→先生のゆとりを生徒へ還元できるように。

使用場面（機能）	ツール	成果と課題
授業の管理	Google Classroom	○紙媒体で配布していたものに加え、様々な種類のファイルが共有できる。 ○オンライン授業でも使用可能 ○課題投稿時刻を管理できる。 △ログインできない等のトラブル △ドメインによっては機能が制限される。 △タブレット等でアプリを開かないと課題が見えないので、紙で渡す宿題より忘れられがち。
小テスト、ドリル	Google Form	○丸付け、成績の処理がほぼ自動で行える。 ○生徒の取り組み状況の把握が容易。 △単語アプリなどに比べると解くのに時間がかかる。 △問題の種類によっては出題できないものもある。
記録（振り返り）	Google Spreadsheet	○生徒の取り組み状況の把握が容易。 ○生徒同士で提示するのも容易。 △どこでも簡単に入力できる、と思うと後回しにしがち。＊
記録（音読）	録音	○漠然と行っていた音読にゴールを設定できる。 ○自分の発音を聞くことができる＊ ○家でも取り組むことができる。 △一斉に行うと聞き取りづらい＊
記録（単語、例文）	Genius Anki	○いわゆるマイ辞書の作成が容易。 △有料 △与えただけでは取り組まない。 △書く練習は改めて時間をとる必要がある。
板書・資料提示	電子黒板	△記録に残すものの精選が重要。 △資料の管理、共有が複雑になることが多い。 △後から見れる、と思うとその場で覚える習慣がなくなる？
文法の解説等	デジタル教科書	○短く、わかりやすい説明。 △教科書本文の解説も入ってしまう。

令和 5 年度相双支部中教研 1 次研 情報部会 持参資料

情報教育に関する本校における実践例等について

① ICT 活用の好事例

- Google Form で作成した単元テストを、Classroom にて生徒に配布している。自動で採点および集計ができ、記述式問題や表記ゆれは個別に採点し直すことで対応。紙の削減や業務効率化につながっている。
- 全職員に iPad を配付し Google ドライブから職員会議要項を見られるようにしている。Goodnotes5 を利用し書き込みも可能。
- 各教室に配付されたスマートフォンで撮影した写真が Google フォトの校内共有アカウントへ自動同期される。

② ICT 活用上の課題・問題点(情報モラル含む)

- 生徒側には情報モラルや情報活用に対する知識や経験が不足している。(個人情報の扱い、長時間利用、情報の取捨選択・真偽の見極め、著作権法など)
- 教師側には ICT 活用に対する意欲や活用能力が不足している。(ICT に対する興味・関心の不足、ICT 活用の忌避など)

令和5年度中教研情報教育部会 広野中学校 資料

[情報教育] 部会	部員 (近藤・松岡)
今年度の部門の反省点について	
○昨年度以上にタブレットを様々な場面・教科で活用することができた。これに伴い、生徒のタイピングやアプリの活用等の操作技術の向上が見られる。 ○総合的な学習の時間などでのネット上の情報を活用する力が高く、情報リテラシーの向上も見られる。 ●タブレット(タッチペン)の紛失や破損が多く見られる。 ●タブレットの使用上のルール・管理を徹底することができていない。学習目的以外でのタブレットの利用が見られる。そのため、タブレットの持ち帰りも1, 2学年では実施できていない。 ●コンピュータ室の利用頻度が非常に少ない。	
来年度の部門の改善点について	
【生徒側】 生徒会活動による管理（教師でのみの管理から生徒同士の注意喚起・管理へ）を行なっていきたい。～実施案～ ・R5.1 月中に図書委員会にタブレットやコンピュータ室の管理・運営を依頼する。 （図書委員会顧問に確認済み、次年度に向けて情報関連の仮担当とする） （次年度から正式にどの委員会が情報関連を担うかを検討しておく） （生徒自身に問題点を認知させ、運営(改善)方法を考えさせる） ・問題点・改善点を確認し、必要であれば、タブレットの利用制限を作るように、教員へ依頼させる。(youtube の視聴制限, 深夜に操作をロックするスクリーンタイムの導入など) ・次年度の前期生徒会総会にて、情報委員会の発足, または現委員会による運営の承認を得られるように準備する。(生徒会会則：第 33 条の改廃を, 第 47 条に則って行う) ・ゆくゆくは、生徒が使用したいアプリ（プレゼンテーション・動画編集・学習など）の提案窓口としても機能させたい。 【教員側】 ・タブレットの取り扱い方やスペック等の基礎知識を全教員で共有できるように資料の準備等を行う。(保護者向け資料も作成する) ・タブレット利用における保護者への承諾書の内容を充実させる。 （破損・紛失時についての対応や家庭内での使用ルールの協力についてなど）	
その他	・タブレットのタッチペンは家庭負担にできないか。 →小中で取り扱い方をそろえる必要があるため、小中連携運営委員会で協議する。 （破損・紛失時についての対応も同様）

広野中学校 学習用タブレット端末等利用規程

1. 目的

学習用タブレット端末等の利用に伴う、情報の漏えい・改ざん・破壊・紛失を防止し、学習ツールとして有機的に活用する。

2. 所有者及び管理責任者

【所有者】……広野町教育委員会 「管理責任者」……広野中学校長

3. 対象者

広野中学校に在籍する生徒

4. 対象機器

広野町教育委員会が貸与する学習用タブレット（iPad） ※ カバー、タッチペンを含む

5. 利用期間及び通信料

- 利用期間は、各年度の始業日から終業（修了）日までとする。学年ごとに年度終了時に学習用タブレットを回収し、次年度まで管理する。使用していたタブレットは次年度でも同じものを使用する。 ※ 3学年で使用していたタブレットは、次年度の1学年が使用する。
- 年度の始業時に「広野町タブレット利用届」を、年度の終業時に「広野町タブレット返却届」への記入・提出を保護者へ依頼する。
- 学習者用タブレットの利用に係る費用は無料とするが、家庭での通信料は家庭での負担となる。

6. 利用方法

- 学習者用タブレットの使用場面は、授業中及びその他教師の指示・監督があるとき、休日中の家庭学習となる。平日の持ち帰りは原則禁止とする。
- 昼休みや放課後等での自主学習及び授業の準備のためにタブレットを使用する際は、必ず指導者が監督につくこと。
- 学校内でのタブレットの保管は、各学年の保管庫（充電ボックス）を使用する。学校内でタブレットを使用しない際（放課後を除く）は、保管庫に置いておく。

平日中

1日の各場面	登校時	1校時以降	清掃前
	登校後は原則、保管庫に入れる。 ただし、各学年・1校時の指導者の監督のもとで使用することは可とする。	授業の指導者の指示・監督のもとで、保管庫から取り出し、使用する。 使用が済み次第、必ず保管庫へ戻す。	清掃前に保管庫に入れる。

休日前

1日の各場面	登校時	1校時以降	放課後（休日前）	家庭内（休日中）
	登校後は原則、保管庫に入れる。 ただし、各学年・1校時の指導者の監督のもとで使用することは可とする。	授業の指導者の指示・監督のもとで、保管庫から取り出し、使用する。 使用が済み次第、必ず保管庫へ戻す。	清掃終了後の下校の準備の際に、タブレットを保管庫から取り出しておく。	指導者が指示した課題及び自主学習に活用する。

- 年度の始めに google アカウントを取得していない生徒の分を申請し、google クラウド上の機能を使用できるようにする。（申請・アカウント管理者：ICT担当）広野小で取得済みの生徒も、同じアカウントを中学校では使用できないため、再取得する必要がある。
- 次年度での利用にあたって、同じタブレットを使用する際は年度内にデータのフォーマットをする必要はない。
- タブレットの充電は基本的には保管庫で行うが、長期休業期間等にACアダプタ、充電ケーブル等を貸与する場合は、各自紛失しないよう管理すること。
- カバーを必ず装着して使用すること。

- 本体及びカバーに添付されている I D シールを剥がしたりシールに文字を書いたりしないこと。
- ロック機能を常に有効にすること。各本体に割り振られたパスコードを第三者に漏れないように注意すること。
- 他人とタブレットの貸し借りはしないこと。
- 家庭内及び公共施設（公民館や役場庁舎内）以外のフリー Wi-fi（駅やコンビニエンスストア）は、情報漏えいの危険があるため、利用しないこと。校外活動で Wi-fi を利用する場合は、指導者の指示にしたがって利用すること。
- タブレットの「設定」を変更する場合は、指導者の指示・監督のもとで行うこと。

7. 危機管理事項

- タブレットに障害や事故等の発生を確認した場合には、速やかに学校から広野町教育委員会へ連絡すること。
- 管理者の許可を得ることなく、アプリケーションのインストール及びアンインストールの指示・運用をしないこと。必要な場合は管理者に申し出ること。（インストールの場合はソフト名・開発企業等の情報等も確認する）
- タブレットのパスコードは学校で一括管理・設定する。
- 歩きながらタブレットを使用させないこと。
- 学習用にふさわしくないインターネットの利用を禁止するとともに、長時間の利用は依存症等を誘発する恐れがあることを指導すること。
- 各学年の副担任は、朝読書、給食の時間、帰りの会前に担当学年のタブレットが保管庫にすべて入っていることの確認・指導・施錠を行う。
- いかなる場合も学校の許可なしに他の情報機器（家庭用 P C, U S B）を接続しないこと。
- 故障（破損を含む）の場合は、速やかに教育委員会へ報告し、保証期間内であれば教育委員会でリフレッシュ品との交換が可能である。保証期間外の場合は、学校の修繕費により修理・交換となる。学校から委託業者（福島中央計算センター）に依頼し、その旨を教育委員会に報告する。ただし、生徒及び保護者による紛失の場合や端末の改造、正規以外での修理（液晶交換等）を行った場合には、本体価格と同額の有償修理とする。（付属のタッチペンについても同様の対応とする）

令和5年度 情報教育全体計画

生徒の実態	学校教育目標	国・県・町の方針
○積極的に情報機器を活用しようとする。 ○タイピングやアプリの活用等の操作技術の向上が見られる。 ・スマホの所持率は、7～8割程度、そのほとんどがSNSを利用している。 ●タブレット(タッチペン)の紛失や破損が多く見られる。 ●学習目的以外でのタブレットの利用が見られる。	1 自ら考え、意欲的に学ぶ生徒 2 自他を敬愛し、互いに高め合える生徒 3 心身ともに健康でたくましい生徒	◎国・県 ・GIGAスクール構想を踏まえた環境整備(1人1台の学習用端末の導入) ・デジタルとリアルの双方の良さを生かした学びの変革(福島県版ICT活用ハンドブック2022の作成) ◎町 ・ICTの効果的な活用による学力向上の推進(授業支援クラウド、AI教材) ・教師のICT活用スキルの向上(ICT支援員の配置、推進校への訪問)
教師・保護者の願い	情報教育指導の力点	家庭・地域の実態
・情報社会に適応できる能力を育成する ・情報機器の基本的な操作を身につける ・情報機器を適切に・有効に・節度を守って活用する ・有用な情報を選択する ・ネット社会における正しい判断力を身につける	<情報活用の実践力> ・ICT機器の操作能力及び効果的な活用能力 ・デジタル教科書、授業支援クラウド、AI教材の有効活用 <情報の科学的な理解> ・情報の必要性の理解 ・有用な情報を選択する能力 <情報社会に参画する態度> ・情報モラル指導計画に基づいた系統的な指導 ・保護者への情報モラルの啓発	・家庭でネットにつながる環境ができてつづける。 ・タブレットを持ち帰っても学習目的以外の利用が多く、保護者も注意、管理し切れていない様子である。(その後、改善が見られなかったため、1,2学年の持ち帰りは中止となった)

生徒の資質・能力の段階

資質・能力	第1学年	第2学年	第3学年
(1) 知識・技能	情報機器の基本的な知識と技能を身につけさせる。	情報を主体的に収集することができる能力を身につけさせる。	必要に応じて、情報を発信・伝達できる能力を身につけさせる。
(2) 思考力・判断力・表現力等	必要に応じて、情報を処理、表現、創造することができる能力を身につけさせる。	問題の解決等に向けて、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけさせる。	自らの情報活用を評価・改善できる能力を身につけさせる。
(3) 学びに向かう力・人間性等	情報機器をルールを守って利用する習慣を身につけさせる。	情報技術の社会への様々な影響を理解し、情報モラルを守る態度を身につけさせる。	望ましい人間関係・情報社会の創造に参画しようとする態度を身につけさせる。

指導内容と場面

分類	(1) 知識・技能	(2) 思考力・判断力・表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
情報機器の利用	情報機器の基本的な構成・機能を理解し、操作することができる。 【各教科・総合・学級活動】	情報の収集や処理の方法を通して、情報を適切に処理することができる。 【各教科・総合・特別活動】	利用できる情報機器を破損・紛失等が無いように、丁寧に扱おうとする。 【各学級】
	学習内容やグループの考えをプレゼンテーション等を活用してまとめることができる。 【各教科・総合】	実験や観測データを処理するために、情報機器を効果的に活用することができる。 【理科・総合】	情報や情報技術をより良い生活や社会づくりに活かそうとすることができる。 【各学級】
	インターネットやアプリの利用方法を理解し、操作することができる。 【各教科・総合・学級活動】	情報を伝えるために、丁寧に分かりやすい表現をすることができる。 【各教科・総合・学級活動】	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見いだそうとすることができる。 【各教科・総合・学級活動】
責任感 情報モラル	情報モラル・マナー、また情報の危険性を理解している。 【技術家庭・道徳・学級活動】	SNSやリモート交流では、双方向に利用者がいることを理解し、相手の立場を考えて利用することができる。 【技術家庭・総合】	個人情報やプライバシーの大切さや責任を理解し、正しく効果的に利用しようとする。【各学級】
	IDやパスワードの重要性を理解し、適切に管理することができる。 【技術家庭・学級活動】		自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえて、尊重しようとする。【各学級】
	写真やイラスト、音楽などには著作権肖像権で保護されていることを理解している。【各教科・総合・学級活動】	フェイクニュースなどの問題を理解し、情報を正しく取捨選択することができる。【各教科・総合・学級活動】	1つの情報にだけとらわれず、多角的に情報を収集しようとする。【各教科・総合・学級活動】

令和5年度 中教研相双支部情報教育部会 第1次研究協議会資料

○各校における実践・取り組みについて

1 ZOOM を用いた授業参加の促進

ケガで学校に来ることができない生徒の補助の一つとして、ZOOM を用いた遠隔授業がある。生徒の体調に合わせて柔軟に授業を行うことで、生徒の継続的な授業の参加が可能になった。

2 タブレットで印刷

Wi-Fi を経由して、各教室のプリンターと接続することで、生徒自身が必要だと思ったものを生徒自身が印刷して使用することができる。

3 便利なソフト、サイト

- ・熊本市教育委員会が提供するデジタル教材

小学校メインの内容になっているが、心情円など中学校でも使えるオンラインの教材が多数ある。→



- ・Canva

創造的なプレゼンテーションや文書作成が可能になる。著作権など考えずに作成することができるので、生徒のみならず、教師にもおすすめ。文書を共有することで、オンライン上で共同編集もできる。教員証明の手続きをすれば無料で使用できる。→



4 部活動への活用

本校では、陸上部での活動にもタブレットを活用している。走りのフォームをスローで撮影し、その場で見せたり、それをロイロノートで共有して蓄積したりすることで、自分の動きを確認できる。また、過去の自分の動きを比べて変化を実感することができる。見学の生徒に撮影係を任せてもよい。

○本校における課題について

1 今後の脱ロイロノートの流れ

本校はロイロノートを導入しているが、学校によりまちまちである。飯館村では、今後もロイロノートを導入し続けるかが不透明であることから、県から推奨されている Google アプリケーションの導入に添えるようにしていく必要である。

7月に福島大学附属中学校で行われた Google Workspace を用いた授業研究では、Google クラウドスルームを用いながら

- ・導入：Google ドキュメント
- ・実験：Google スライド
- ・結果のまとめ：Google フォーム
- ・振り返り：Google スプレッドシート

参考資料→

というように、Google のアプリケーションで統一して授業を行っていた。

Google のアプリケーションは無料なため、導入のハードルは低い。今後、それらを活用できる環境を整備していきたい。

